

岡尾恵市教授 略歴・論文等一覧

略歴

- 1938年7月26日 京都市下京区に生まれる
- 1957年3月 京都市立堀川高等学校卒業
- 1957年4月 東京教育大学体育学部体育学科入学
- 1961年3月 東京教育大学体育学部体育学科卒業
- 1961年5月 京都府立洛東高等学校教諭
- 1968年4月 京都府立洛北高等学校教諭
- 1969年4月 立命館大学専任講師（保健体育教室）
- 1969年10月 立命館大学助教授（同上）
- 1973年4月 立命館大学助教授（経営学部）
- 1976年4月 保健体育教室主任（1978年3月まで）
- 1979年4月 二部学生主事（1980年3月まで）
- 1980年4月 立命館大学教授（経営学部）
- 1984年4月 Avery Hill College, London 体育学科に研究留学（1984年9月まで）
- 1988年4月 保健体育教室主任（1989年3月まで）
- 1988年7月 評議員（1990年7月まで）
- 1992年4月 入試総主査（1993年3月まで）
- 1994年4月 立命館大学教授（文学部に移籍）
- 1994年9月 St. Mary's College, London 体育学科に研究留学（1995年3月まで）
- 1996年4月 文学部就職委員長（1997年3月まで）
- 1998年4月 立命館大学教授（経済学部に移籍）
- 2000年4月 経済学部就職委員長（2001年3月まで）
- 2004年3月 立命館大学経済学部教授を定年退職（予定）

非常勤講師歴

龍谷大学・京都大学教養学部（体育実技）・京都工芸繊維大学繊維学部（体育理論・体育実技）
京都教育大学（保健体育科陸上競技）

所属学会

日本体育学会（1986年 1988年度 会長指名常務理事
1986年11月27日 1993年3月31日および
1997年4月1日 2003年3月31日 全国評議員）

京都体育学会 (1986年度 1991年度および1993年度 2003年度 理事)
 スポーツ史学会
 日本陸上競技学会
 ランニング学会

I. 著書

1. 単著「陸上競技のルーツをさぐる」(文理閣, 全254頁, 1996年9月)
2. 共著: 山西哲郎「はしるスポーツ」(岩崎書店 pp. 4 51, 1990年3月)
3. 共著: 山本邦夫「オリンピックものがたり」(岩崎書店 pp. 4 31, 1990年3月)
4. 共著: 他5名「スポーツのルール・技術・記録」[「スポーツ文化論シリーズ②」]
 (所収論文「イギリスにおける“近代陸上競技”のルール創出・変化の過程に見られる合理主義」, 創文企画 pp. 191 229, 1993年11月)
5. 共著: 小林善雄他「四つの駅伝物語」(所収論文「“駅伝”ひとつの役割」(鹿友館, pp. 21 34, 1999年2月)
6. 共著: 石井信, 水城明彦他8名「マラソン最強伝説」(所収論文「五輪紀行・オリンピックの『マラソン競走』を振り返る アテネ大会からアトランタ大会まで」, (ベースボール・マガジン社 pp. 44 51, 2000年7月)
7. 共訳: 寺島善一, 森川貞夫, 阿部生雄, 山下高行, 窪田道雄「現代社会とスポーツ(P・マッキントッシュ著)」(第1章 pp. 1 22・第8章 pp. 121 137担当, 大修館書店, 1991年6月)
8. 共著: 末川清, 坂野光俊, 山口定, 宮本憲一編「戦後50年をどう見るか(下)」(所収論文「スポーツの分野から」 pp. 153 170, 人文書院, 1998年7月)

II. 論文

1. 単著「今日の都市生活者の運動・スポーツに関する意識と行動(吹田市・埼玉県大井町の調査から)」(『立命館大学人文科学研究所紀要』第39号, pp. 67 110, 1985年3月)
2. 単著「陸上競技の技術史」(『新版・スポーツ・健康』文理閣所収 pp. 111 123, 1986年4月)
3. 単著「イギリスにおける近代陸上競技組織成立の経過」(『立命館大学人文科学研究所紀要 別冊“保健・体育研究”』第7号, pp. 69 113, 1990年3月)
4. 単著「日本マラソン強さの秘密」(『スポーツ科学と人間 水田教授退職記念論集』文理閣, pp. 39 68, 1993年3月)
5. 単著「近代女子陸上競技成立の過程 FFSFI(「国際女子スポーツ連盟」)設立を経て第9回アムステルダム五輪に女子陸上競技種目が登場するまで」(『立命館文学』第536号, pp. 555 597, 1994年11月)
6. 単著「記録の変遷から見た“全国都道府県対抗女子駅伝”が日本女子陸上界に果たした役割」(『立命館文学・立命館文学部創設70周年記念論集』第551号 pp. 284 289, 1997年11月)
7. 単著「黎明期における女子陸上競技および女子中距離・マラソン競走に関する略年表」(『京都体育学研究』No. 14 pp. 17 24, 1999年3月)
8. 単著「“マラソン競走”が42.195Kmの距離に設定されるまでの経緯」(『立命館経済学』第50

巻第4号pp. 36 56, 2001年10月)

9. 単著「仏女性, Alice Million Milliat (1884~1957) が“女性スポーツ界”に果たした足跡」(『立命館経済学』第50巻第5号, pp. 168 187, 2001年12月)
10. 単著「立命館大学における課外スポーツ活動の歩み」(『立命館百年史紀要』第12号, 2004年3月)

Ⅲ. 翻訳

1. 翻訳「イギリス陸上競技史・第1章 (M. Shearman 著)」(『立命館大学人文科学研究所紀要(保健体育)』第25号 pp. 213 241, 1997年6月・第29号 pp. 99 125, 1977年6月, ・第31号 pp. 73 95, 1980年7月)
2. 翻訳「陸上競技の管理・運営組織・第8章 (M. Shearman 著)」(『立命館大学人文科学研究所紀要(保健体育)』第33号 pp. 73 108, 1981年6月)
3. 翻訳「英国近代陸上競技オックスフォード会議および英国陸連財政面からの回顧(英国陸連創立50周年誌より)」(『立命館大学人文科学研究所紀要 別冊“保健・体育研究”』第4号 pp. 113 144, 1987年3月)
3. 翻訳「オリンピックにおける女性 承認に向けた闘い (J. Hargleaves 著)」(『立命館教育科学研究』第8号 pp. 227 237, 1996年7月・第9号 pp. 193 207, 1997年3月)
4. 翻訳「ヴァエサー・カレッジにおける42年間の陸上競技(1895~1937)(L. M. Tricard 著)」(『立命館教育科学研究』第11号 pp. 159 177, 1997年11月)
5. 翻訳「アメリカにおける黎明期の女子陸上競技の状況(L. M. Tricard 著)」(『立命館経済学50周年記念論文集』第47巻 第2・3・4合併号 pp. 1 15, 1999年3月)

Ⅳ. 研究報告書

1. 単著「吹田市民の運動・スポーツの意識と実態」(『吹田市民のスポーツ調査報告書』吹田市・同教育委員会・立命館大学地域社会研究会 pp. 1 54, 1983年3月)
2. 単著「大井町の住民の運動・スポーツに関する意識と活動実態」(『大都市周辺における社会体育行政の変遷と地域住民の体育スポーツ活動の現状 本文編』(埼玉県大井町史編さん委員会 pp. 119 196, 1985年3月)
3. 共著: 金井淳二「競技力規定要因の構造的把握のための“国民体育大会”を中心とした競技力向上施策の分析」(『平成1~3年度 科学研究補助金(一般研究C) 研究成果報告書(01580140)』 pp. 1 24, 1993年3月)
4. 単著「近代女子陸上競技組織成立の経過と女子陸上競技種目設定過程の研究」(『平成8~10年度 科学研究費補助金成果報告書(08680147)』全136頁, 1999年3月)
5. 単著「国際オリンピック委員会(IOC)組織成立の経過と歴代委員の果たした役割」(『2000年度 立命館大学々術研究助成研究成果報告書(特定研究1)』全136頁, 2001年3月)

Ⅴ. 事典執筆

1. 『最新スポーツ大事典』(「陸上競技 pp1323 1335」「駅伝競走 pp109 110」「円盤投 pp112 115」

「競歩 pp224 228」「クロスカントリー競走 pp264-266」「コース pp316」「混成競技 pp358 361」「三段跳 pp382 385」「障害物競走 pp434 437」「走高跳 pp973 977」「走幅跳 pp977 981」「ハードル競走 pp1004 1008」「ハンディキャップ pp1047 1048」「ハンマー投 pp1055 1059」「砲丸投 pp1147 1151」「棒高跳 pp1155 1159」「マラソン pp1215 1220」「やり投 pp1263 1267」「リレー競走 pp1339 1342」の19項目担当,大修館書店,1987年6月)

Ⅵ. その他

1. 「陸上競技知ってるつもり」(月報「京都陸協通報」120回連載中)(1990~2003年)
2. 陸上競技専門雑誌連載『陸上競技のルーツをさぐる』(「短距離競走の歴史」「短距離スタート方法の変遷」「近代陸上競技の誕生」「陸上競技場の出現」「障害物競走の歴史」「ハードル競走の歴史」「超長距離とマラソンの歴史」「駅伝競走の歴史」「リレー競走の歴史」「走幅跳の歴史」「三段跳の歴史」「走高跳の歴史」「棒高跳の歴史」「砲丸投の歴史」「円盤投の歴史」「ハンマー投の歴史」「やり投の歴史」「混成競技の歴史」)(講談社・月刊陸上競技社)(1994年1月号~1999年6月号まで62回連載)
3. 「国民のスポーツ・健康の現状とスポーツ健康産業」(『経営学部で学ぶために』経営学部で学ぶために編集委員会編 文理閣pp. 123~134 1984年5月)
4. 三省堂ブックレット『スポーツ・ルールものがたり』連載(「“重りを持った走幅跳”」「マラソン”の距離”」「“やり”の形状変更に伴う記録の変化”」「ホップ・ステップ・ジャンプ”」「ハードル間の距離とハードルの高さ”」「混成競技の採点表”」「“木登り式”棒高跳の禁止から6米時代へ”」「リレーにおけるバトンの役割”」「ベン・ジョンソンの作戦と落とし穴」)(三省堂宣伝部)(1987年9月~1989年1月まで隔月9回連載)

Ⅶ. テレビ・ラジオ番組解説・企画・出演

1. 「京都国体陸上競技・種目解説」(KBS 京都 TV 出演)(1988年10月11日~18日)
2. 「“3000 m 障害物競走”が生まれたきっかけは」(NHK 総合「面白ゼミナール“日本人の質問”」VTR 出演)(1996年9月29日放映)
3. 「“スエーデン・リレー”命名の経過」(フジ TV「めざまし突撃隊」VTR 出演)(1996年10月9日放映)
4. 「駅伝の歴史」(フジ TV「ひらめけ! 発明大將軍」資料提供)(1997年3月7日放映)
5. 「陸上競技はなぜ左回りなのか」(TV 福岡「おしらベメンタイ」電話対応出演)(1997年10月10日放映)
6. 「棒高跳解剖! 超人の技! ビルを越す」(テレビ朝日「紺野美紗子の科学館」資料提供)(1997年11月1日放映)
7. 「歩数の戦い! ハードル競走大解剖!」(テレビ朝日「紺野美紗子の科学館」資料提供)(1998年11月21日放映)
8. 「フルマラソン42.195キロの謎!」(テレビ朝日「運命のダダダダーン! 運命の一言・世界痛快伝説」資料提供)(2001年6月15日放映)
9. 「陸上のトラックはなぜ左回り?」(NHK 総合「スポーツなぜなぜ!」番組構成企画およびVTR 出演)(2001年6月以降度々放映)

10. 「日本における最初の運動会で“うさぎの月見”とは現在の何という競技？」(日本テレビ「クイズ!! 赤恥・青恥」資料提供)(2001年7月13日放映)
11. 「駅伝のシーズン到来! 駅伝のルーツをさぐる」(KBS 京都 TV「きらめき Story」資料提供)(2002年12月4回放映)
12. 「ハードルの高さ」(TBS「ニュースの森」“世界陸上”関連ニュース資料提供)(2003年7月18日放映)
13. 「“駅伝競走”命名の由来とはじめての“驛傳競走大会”の様子」(CBC 中部日本放送, 電話による解説)(2003年11月8日放送)
14. 「誰も知らなかった『アテネオリンピック』!」(光文社“FLASH EXCITING”1月30日増刊号写真・資料提供, 解説文試案)(2003年12月25日発行)

教育実践

1969年4月～2004年3月

主な担当科目 スポーツ方法論Ⅰ・Ⅱ, スポーツの歴史と発展, スポーツ指導論, スポーツ技術開発論

その他の役職

- 1971年度 1998年度 京都陸上競技連盟常務理事(審判部長・広報部長・競技部長歴任)
- 1985年度 1988年度 (財)京都府体育協会総務委員
- 1989年度 2005年度 同 普及委員
- 1987年9月 日本体育学会第38回大会実行委員会・事務局長(於:立命館大学衣笠学舎約3500名参加)
- 1992年度 2003年度 (社)全国大学体育連合近畿支部理事
- 1998年度 2003年度 (社)全国大学体育連合全国理事
- 1998年度 2000年度 (社)全国大学体育連合近畿支部・支部長

栄賞

- 1994年10月 秩父宮章(日本陸上競技連盟)
- 2000年3月 京都府スポーツ賞(京都府知事)
- 2001年5月 功労賞(財)京都府体育協会)

以上